

MECCだより

武蔵野・多摩環境カウンセラー協議会広報紙 第44号 2017年 7月

もくじ

巻頭言：一年間のMECC理事長を経験して	稲田 昂
家庭での環境取組～我家の環境大臣事業取組等～報告	泉 浩二
斉藤鉄夫議員(元環境大臣)へのECU政策要望書提出	野村 和男
平成28年度MECC環境施設見学会	井田 秀明

巻頭言：一年間のMECC理事長を経験して

武蔵野・多摩環境カウンセラー協議会理事長 稲田昂



MECC全体としての活動状況については、平成28年度MECC事業報告及び平成29年度計画として、去る6月17日に開催した総会の資料に記載されています。平成28年7月から理事長の任を受け約1年間を経過した時点で、感

じていることを述べたいと思います。

月例会に関しては、1年を通してコンスタントに毎月第2木曜日の18時半から約2時間で開催できました。全国環境カウンセラー団体連合会、EA21地域事務局東京中央など関連団体の会議等へ参加した担当者からの報告、会員各自からの講演会・セミナー・活動などへ参加しての報告、MECC活動に関する審議事項など、時間の許す範囲で状況・情報の周知ができ、また必要な審議を行うことができたことと理解しています。各会員の活動事例及び入手情報の報告に割ける時間が制限されて、情報の伝達内容に不十分な場面もあったと理解しています。その点では、効果的・効率的な情報伝達の方法も課題です。

月例会への出席者は各回ほぼ12-15人でした。H29年度においては、できるだけ多くの参加者があり、また、月例会が一層有意義・有用な会合になっていくことを願っています。

環境カウンセラー制度については発足から約20年を経過しますが、環境省としても環境カウンセラーの有用・有効な活用方法を見いだせていない状況です。また環境カウンセラーであっても一人で問題を解決できる範囲はわずかであり、地域や事業者のあらゆる環境問題に対処することはできません。これらのことが環境カウンセラーの悩みの一つであると思います。一人ひとりが自分の得意な分野に対して理解と経験を深めることに努力し、活動の機会があれば地道に参画していくことが大事だと思います。

MECCの会員数はこの数年、若干の減少傾向です。主として多摩地域で活動されたいながら現在会員でない環境カウンセラーの方や、地域・事業者などで環境をよくする取組を支援・参画しておられ、環境カウンセラーではない多くの方々にも加入いただき、仲間づくりとともに、情報交換行い、仲間・事業者・団体・自治体などと連携した活動の機会を多く作っていくことも重要と考えます。

家庭での環境取組～我家の環境大臣事業取組等～報告

理事 泉 浩二

この度、2005年に環境省事業「我が家の環境大臣事業」に団体登録した愛称「メック・エコスターズ」他有志による家庭でのエコライフへの取り組みを報告書としてまとめましたので、概要を紹介いたします。報告書にはここで紹介するもののほか、家庭等環境での取り組みの個別報告、参考資料を収録しました。報告書全体はMECCのHPに載せてあります。

I 我が家の環境大臣事業等取組結果紹介

メック・エコスターズの2005年から2013年までの取組結果概要についてまとめました。

1 電気・ガスCO₂排出量の推移と削減取組

1.1 電気・ガスCO₂排出量の推移

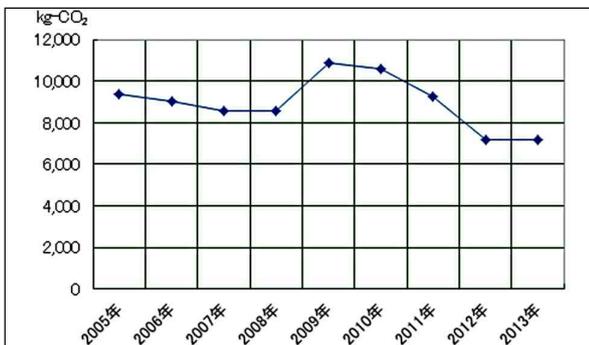


図1 CO₂排出量(総量)の推移

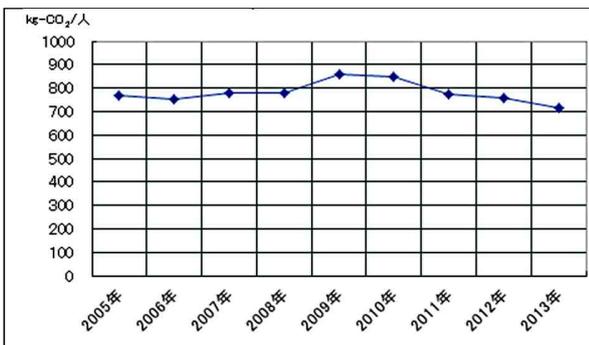


図2 CO₂排出量(一人当たり)の推移

1.2 まとめ

1) 2005年～2013年の結果

人数の減少(2005年12.25人→2013年10人)のほか、2013年度には僅かながら総人数の減少(2005年比0.82)よりCO₂減少(2005年比0.76)が上回っています。また、一人当たりCO₂排出量が2005年より2013年に6%減少しました。

一般的には世帯人数が減るほど、また高齢化が進むほど一人当たりエネルギー消費量が多くなります(平成18年版環境白書)。私たちの場合も世帯人数の減少、高齢化が進みましたが、何とか人数の減少以上のCO₂排出量の減少、一人当たりCO₂排出量の減少がみられました。

2) 東日本震災(2011.3.11)前後の電気使用量比較

震災前後の1年間(2010年度と2011年度)では、対象人員が変化していますが、総量で16%、一人当たりで11%の減少となり一定の取組効果が現れたものと思います。対前年同月比では、特に夏季8、9月の削減率が18%、29%と大きく、夏の節電が大きく進んだことがわかりました。

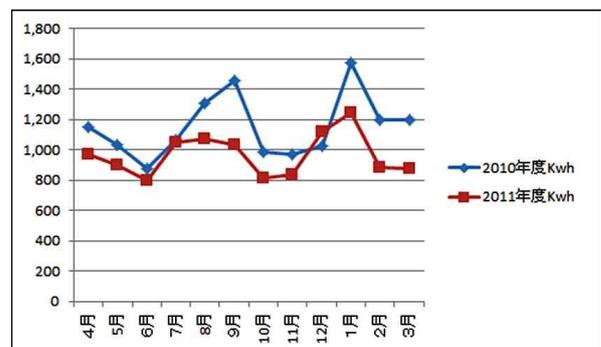


図3 震災前後の電気使用量(総量)の推移

注1) CO₂排出係数: 電気=0.378kg-CO₂/kwh、ガス=2.11kg-CO₂/Nm³ 注2) 参加世帯: 2009～11年は5世帯、その他は4世帯

年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2013年/ 2005年
kg-CO ₂	9,389	9,021	8,549	8,562	10,914	10,612	9,279	7,181	7,173	0.76
人	12.25	12	11	11	12.67	12.5	12	9.5	10	0.82

表1 電気・ガスCO₂排出量の推移(合計:暦年)

年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2013年/ 2005年
kg-CO ₂ / 人	766	752	777	778	861	849	773	756	717	0.94
世帯人数	3.06	3.00	2.75	2.75	2.53	2.50	2.40	2.38	2.50	0.82

表2 電気・ガスCO₂排出量の推移(一人当たり:暦年)

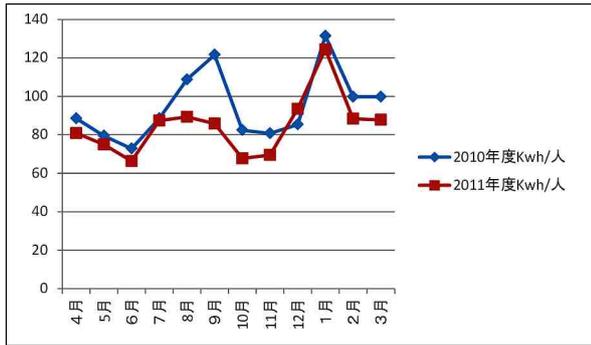


図4 震災前後の電気使用量（一人当たり）の推移

3) エネルギー節約等取組

実際に行った取組について表3に整理しました。運用改善と設備改善により、このような効果があったものと考えています。

気象条件、生活状況によりエネルギー消費量は変化します。取組参加世帯では世帯人員の減少、高齢化が続き、エネルギー節約には不利な状況が続いていますが、一方で、できる範囲での生活の在り方、運用、設備・機器の改善の工夫をはかっています。

表3 エネルギー節約等取組

区分	実施項目	備考
運用	・テレビ鑑賞時間の削減	
	・不要照明の消灯	
	・スイッチオフ(待機電力)励行	
	・冬季暖房便座のふたを閉じた	
	・ガス風呂加熱時間減・湯水量の削減	
	・ガス床暖房時間制限	
	・エアコン設定温度(夏29度、冬19度)	
	・省エネナビ設置	
設備・機器	・圧力がま使用	電気炊飯器→ガス圧力釜 2009年1月より
	・エアコン更新等省エネ家電買い替え	
	・照明のLED化	
	・太陽光発電導入	2009年7月より
	・パッシブソーラー修理(太陽熱利用)	2009年8月より
	・窓の断熱化(二重窓、複層ガラス、スクリーン、エコ雨戸等)	

2 パワーモニターによる家電電気使用量の「見える化」

家電ごとの電気使用量が測れる測定器により待機電力も含め測定しました。機種、測定条件により、電気使用量が随分違うことがわかり、機器選定、使い方の工夫によって電気使用量の節減が大きく図れることを示すものとなりました。詳細はHPの報告書でぜひご覧ください。

斉藤鉄夫議員(元環境大臣)へのECU政策要望書提出

平成29年5月19日(金) 新宿

野村 和男

政策要望懇談会開催の折、環境カウンセラー全国連合会(以下 ECU)より、元環境大臣の斎藤鉄夫衆議院議員及び東京都議に、国及び東京都における環境カウンセラーの活用及び活動の支援について、政策要望書を手渡した。ECUからは佐々木理事長・今井副理事長・鈴木常務理事・河野理事・江原理事・望月理事・早野環境教育委員・野村の8名が出席した。

政策提言は、(1)国政に対して、①環境カウンセラーの活用を環境関連法規等に明記して、法的な位置付けを明確にすること。②全国8か所にある環境省の環境活動拠点施設EPO(環境パートナーシップオフィス)に環境カウンセラーの派遣等の拠点として、

活用すること。(2)都政に対して、都政、区政における環境カウンセラーのさらなる活用を検討していただきたいとする内容である。

この政策要望懇談会には40名近くの陳情団が参加しており、当団体を含めて7団体が斉藤議員に要望書を手渡した。

この請願が、少しでも早く成就されることを期待している。



平成28年度MECC環境施設見学会

平成29年3月7日(火) 茨城県日立市

井田 秀明

平成28年度MECC主催環境施設見学会として、日鉦記念館と日立製作所大みか事業所を訪問した。参加者は18名(MECC、SECA、エコアップ協議会)、みぞれ降る中、午前8時に三鷹駅前を出発した。

日鉦記念館は日本4大銅山である日立鉦山の中心地に1985年に開設され、日立鉦山の歴史、日立鉦山から発展した日産コンツェルン、日立製作所、および日鉦グループの展示がされている。



日立鉦山は久原房之助氏により赤沢鉦山を引継ぎ1905年～1981年までの76年間に約3000万トンの鉦石を採掘し約44万トンの銅を産出した。

日立鉦山は日本の中心かつ港湾から近距離であるという特徴により、他の鉦山の鉦石も購入して製錬することで規模の拡大を進めて短期間で日本第四位の生産量となった。業容拡大により鉦山の機械化・電化の維持の為に修理部門が発電機、電気機関車などを開発・製造したことから発展して日立製作所が誕生している。

鉦山規模の拡大により銅製錬により発生する亜硫酸ガスの煙害が深刻化した。鉦山と地域住民の共存共栄の考え方により、鉦山側は生活環境保護と煙害対策を進めた。煙害源の亜硫酸ガスを高度で拡散させるための煙突を設置したり、地域に測候所を設置して風の状況を監視し、操業度を調整するなど、煙害削減対策をした。



さらに煙害によって荒廃した山林には植林を展開する中で、煙害に強いオオヤマザクラが選択されて大量に植林されるようになった。その後ソメイヨシノが学校や社宅に植えられたことにより日立市は桜の名所となっている。日立鉦山の発展の経過、発展により生じた鉦害を克服した鉦山側の取組み、地域住民の生活の状況などを詳しく知ることができた。

次の日立製作所大みか事業所は、制御技術・制御用計算機の専門工場で電力系統制御、新幹線などの鉄道運行システム、水環境システム監視など情報社会インフラのトータルシステムを提供する日立グループの基幹事業所である。また、環境配慮の取組みではISO14001およびISO50001(エネルギーマネジメントシステム)認証を取得し「茨城県エコ事業所」に登録されている。大みか事業所を映像で紹介して頂いた後、サンバレー太陽光パネル(440kW)、太陽光パワーコンディショナ(PCS)、3360ユニットで構成する蓄電池(4200kWh)を見学、その後、事業所約4000名の皆さんの省エネ省資源、廃棄物ゼロ運動、温暖化防止対策など環境配慮の取組みを説明頂いた。全員が環境目標の達成に向けて「環境かるた」を考案するなど、日々取組みが行われている。私達にも大いに参考になった。

日鉦記念館では鉦害対策と環境保護、日立製作所大みか事業所は日本を支える最先端の技術と持続可能な社会への取組みを勉強し、有意義な研修旅行となった。



参考文献：

- 1) ウィキペディア 日立鉦山
- 2) 日立製作所大みか事業所 環境白書2016年度

編集後記 今回の記事にあります環境施設見学会は、日立製作所大みか事業場の方が省エネセンターで事例講演され、それをご縁に工場見学が実現したものです。この場を借りて御礼申し上げます。

発行者：NPO 武蔵野多摩環境カウンセラー協議会(MECC)事務局
〒180-0011 東京都武蔵野市八幡町3-1-1 稲田 昂
TEL：042-646-3822
ホームページ：<http://www.mecc.or.jp/>
編集者：望月 真